
〔高度人材の育成における〕

大学のあり方について（次回論点メモ）

平成25年6月20日
環 境 県 民 局

| 目 次 | | 頁 |
|--------------------|--|----|
| 目指すべき姿 | | 1 |
| 背 景 | | 2 |
| 経済財政会議における議論 | | 3 |
| 論 点 | | 4 |
| 仮 説 | | 5 |
| 本県の取組① (大学の魅力向上) | | 6 |
| 本県の取組② (留学受入・定着促進) | | 7 |
| 本県の状況① (転入・転出等) | | 8 |
| 本県の状況② (大学配置) | | 9 |
| 本県の状況③ (学生数) | | 10 |
| 本県の状況④ (学部・学科) | | 11 |
| 大学改革等の動向 | | 12 |
| 他大学における事例 | | 13 |

目指すべき姿

- グローバル化の進展や本格的な少子高齢・人口減少社会の到来を踏まえ、今後の社会経済環境の変化を見据えつつ、広島県の大学において『広島，日本，世界に貢献する高度な人材※』を持続的に輩出する教育環境を構築する。

※高度な人材：グローバル人材など、産業界や地域社会等が求める高度な能力や資質を有する人材

背 景

- 広島県の発展に向け、イノベーションを継続して起こしていくための原動力となる人材の教育・集積が必要

『県政運営の基本方針2013』より

【社会で活躍する人材の教育】

高度な人材の育成のため、グローバル化の進展に対応した大学段階での教育内容の質的改革が必要

【多様な人材の集積】

県内外から人材を集めるためには、県内大学の魅力向上に向けた高等教育環境の整備が必要

- 海外留学生(3ヶ月以上)及び外国人留學生の伸び悩み
 - ～ 海外留学生全体は増加傾向にあるものの、留学期間3ヶ月以上については伸び悩み
 - ～ 外国人留學生は、H22年以降、横ばい(2,700人程度)で推移
- 大学進学時の転出超過
 - ～ H24年の転出超過▲2千人(県外へ進学▲7.6千人+県外から県内への進学5.6千人)
- 地域において特徴ある教育を行う大学の出現
 - ～ 国際教養大学(AIU), 立命館アジア太平洋大学(APU)など、国際教養教育を中心に特徴的な教育を行い、社会的評価を得ている大学が地域において出現
- 大学ガバナンス改革の必要性の指摘
 - ～ グローバル化に対応した教育環境づくりなどの実現のためには、学長がリーダーシップを発揮し果敢に改革を進められるよう、大学のガバナンス改革が必要(教育再生実行会議第三次提言)

経済財政会議における議論

H24 第2回広島県経済財政会議 (H24.6.22)

テーマ② 「質の高い教育環境を創る」

「質の高い教育環境に向けて」 (宇野委員提出資料)

《大学の機能強化と連携》～3Stepの大学改革【長期】

- 国の大学改革の動き等を踏まえ、県内大学の連携による教養課程の共同実施等、大学リソースの集約化を進めるべきである。
- その結果捻出された財源により、世界レベルの研究者等を招聘し、産・学・官の連携による、ヒト、モノ、カネ、イノベーションの好循環を形成すべきである。

<Step1[集約]>

標準化可能な業務を集約し、スケールメリットにより戦略的資金の獲得

<Step2[世界レベル]>

世界的な人材を招聘し、世界レベルの研究成果を蓄積

<Step3[連携]>

産・学・官の連携によるヒト、モノ、カネ、イノベーションの好循環

〔主な議論〕

- 地域にきちんと人材供給できるようにするためには、グローバルな人材がしっかり教育できる大学が求められる姿ではないか
- グローバル人材の育成には、英語が必須、海外留学を奨励
- 大学のレベルアップは、結果として地元にも色々メリットが出る
- 大学のレベルアップは、地域と大学がWin-Winになる感じ
- 改革にはリソースの投入が必要であり、産業界の協力が必要
- 大学改革を考えたとき、学内政治的にそれができるかが問題
- 改革は必ず何かをスクラップしながらでないとうまくいかない
- トップレベルの大学を作るには、ベストは海外から大学を引っ張ってくるのだが、無理なら大学のアンブレラで組織を構築
- ステップ1の集約は、広島大学を中心に集約化するのか、県立大学で考えるのかなど、最初の段階で決めておく必要がある

論点・仮説

論 点

- 広島県からグローバル人材などの高度な人材を輩出していくために大学としてどのような取組が必要か。

仮 説

○ 本県の大学においても、国際教養教育を充実・強化することで、高度な人材を継続的に輩出できるのではないか。

〔 ・ 英語による授業の実施(AIU, APU) ・ 海外留学の必須化(AIU) 〕
〔 ・ 留学生の大幅な受入れ拡大(APU:学生の約半数が留学生) 〕

○ 国際教養教育を充実・強化するためには、海外留学を義務づけることや、留学生を積極的に受け入れることなどにより、大学における教育環境のグローバル化が図れるのではないか。

○ 海外留学や留学生受入の促進も含め、国際的に評価される教育を実施するためには、学長のリーダーシップにより果敢に改革が進められるよう、大学のガバナンス機能を強化することが必要ではないか。

○ また、こうした教育は、県内大学が連携・共同してリソースの確保等を行うことにより可能となるのではないか。

本県の取組①（大学の魅力向上）

- 各大学における独自の取組とあわせ、大学等の連携による人材育成の取組を支援し、**県内大学全体の教育の質の向上**を図るとともに、**県内大学の情報発信機能を強化**することにより、本県における大学進学時の転出超過(約2千人)に歯止めをかける。

教育の質の向上

■ 大学連携による人材育成推進事業 (H25予算:56百万円)

次代を担うグローバル人材の育成に向けて、複数大学が産業界等と連携して行う教育プログラムの開発・実施を支援 等

【H25開発・実施予定:7プログラム】

(前期)

- ・ グローバルプロジェクトマネジメント(広島市立大学等)
- ・ 高大連携による留学支援講座(広島女学院大学等)
- ・ 産業分野におけるグローバル人材育成講座(近畿大学工学部等)

(後期)

- ・ 国際経営を理解する人材の育成と備後企業の取組(福山大学等)
- ・ グローバルマネジメント(広島大学等)
- ・ グローバル人材育成プログラム(安田女子大学等)
- ・ 企業経営とイノベーション(県立広島大学等)

※参考 H24:5プログラム, 受講者200人, 受講者満足度78.5%

情報発信機能の強化

■ 大学の魅力発信強化事業 (H25予算:17百万円)

【県内大学進学PRの実施】(新規)

① 県内高等学校訪問

県内高等学校(20校程度)を訪問し、直接生徒にPRを実施

② 広島県内大学情報説明会

県内高等学校の進路指導教員や保護者を対象に県内大学・短期大学が参加し、県内大学等の進学情報や個別相談を実施

- ・ 進路指導教員対象 広島, 福山各1回 7月予定
- ・ 保護者対象 広島, 福山各2回 6,7月及び11月頃予定

※参考 H24:県内進路指導教員対象 98校参加
県外(島根, 山口県)進路指導教員対象 40校参加

【大学ガイドブックの作成・ホームページへの掲載】

県内の27大学等の基本情報等をまとめたガイドブックやポスター作成
県内外高校等へ配付(県内及び中四国九州), HPへの掲載

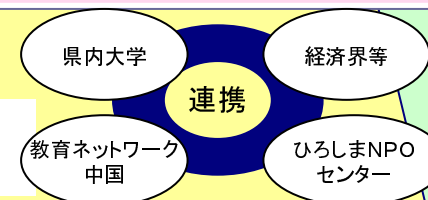
県内全大学共用の「サテライトキャンパスひろしま」

開設:H25. 4 運営:県立広島大学

主な
取組

- ・ 単位互換科目(各大学における講義, 大学連携教育プログラム等)
- ・ 大学生の交流・連携, 経済界との連携, NPO等非営利組織との連携

- ・ 公開講座(社会人の学び直し等)
- ・ 情報発信 など



本県の取組②（留学受入・定着促進）

○ 優秀な留学生の受入れと県内での活躍環境づくりや大学のグローバル化の推進に取り組むことにより、グローバル人材の育成・確保を図る。

【成果目標】 県内留学生5年で倍増(H26:4,600人), 県内外留学生の県内就職者数5年で倍増(H26:220人)

留学生の受入れと活躍環境づくり

■ 広島県留学生活躍支援センター支援事業等 (H25予算:36百万円)

センターを核とした広島の魅力発信及び留学生の県内企業への就職支援 等

〔広島の魅力発信の充実〕

- ・ウェブサイトの多言語化等
- ・留学生魅力発信チームの運営
- ・ひろしま留学サポーターの配置
- ・広報強化専門員の配置

〔就職支援の充実〕

- ・就職活動の個別コンサルタント
- ・企業・留学生交流サロン
- ・留学生活用セミナー
- ・留学生企業説明会
- ・就職支援専門員配置

大学のグローバル化の推進

■ 留学生を核とした大学グローバル化推進事業（新規） (H25予算:8百万円)

大学のグローバル化推進のため、大学との連携体制を構築するための調査・研究等を実施

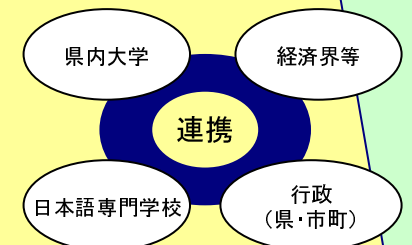
- 留学生・大学グローバル化研究会(仮称)の運営
- 留学生・大学グローバル化フォーラムの開催
- 県・大学連携による海外協定校からの学生の短期受入
- ベトナムにおける県内大学等との共同PR活動の実施

『広島県留学生活躍支援センター』

開設:H23.4 運営:(公財)ひろしま国際センター

～ 留学生の受入促進から県内における留学生の勉学・生活及び就職までの総合的な支援

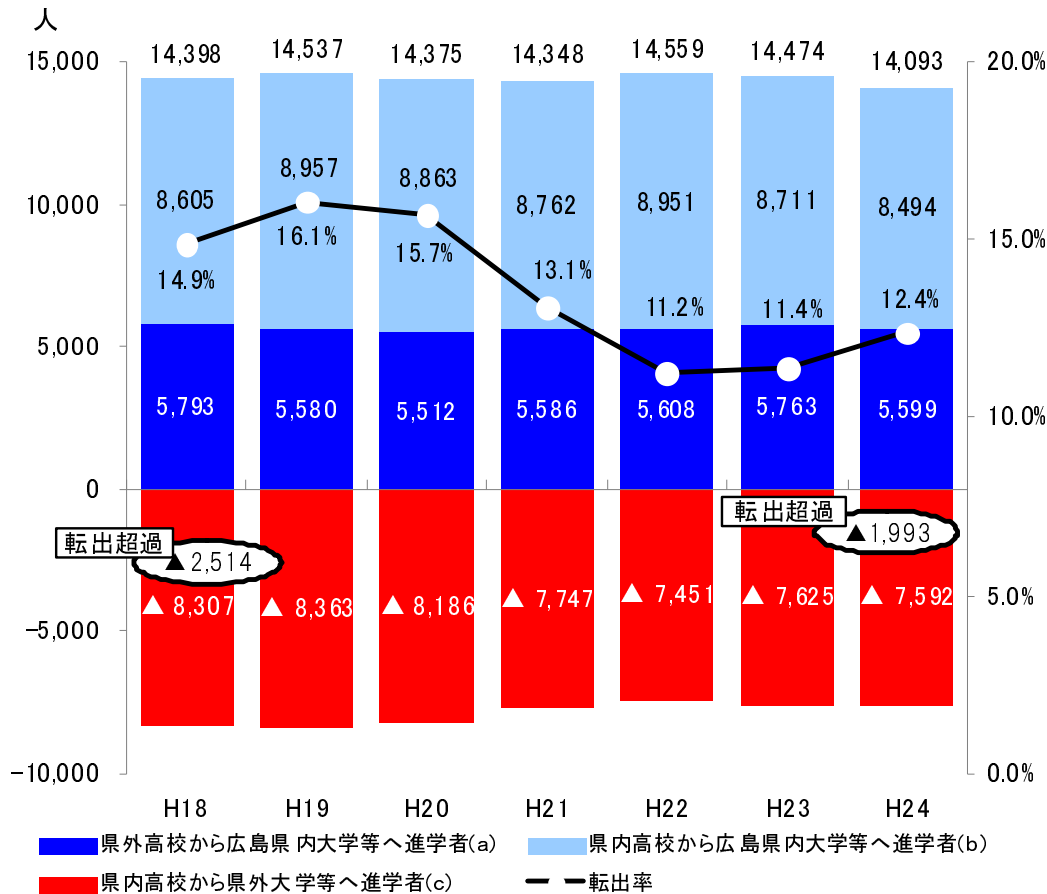
- | | | |
|------|--|---|
| 主な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトの運営 ・進路説明会 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ ・就職セミナー, 就活日本語研修 等 |
|------|--|---|



本県の状況① (転入・転出等)

■ 大学進学時の転入・転出状況

○ 大学進学時において、約2千人の転出超過



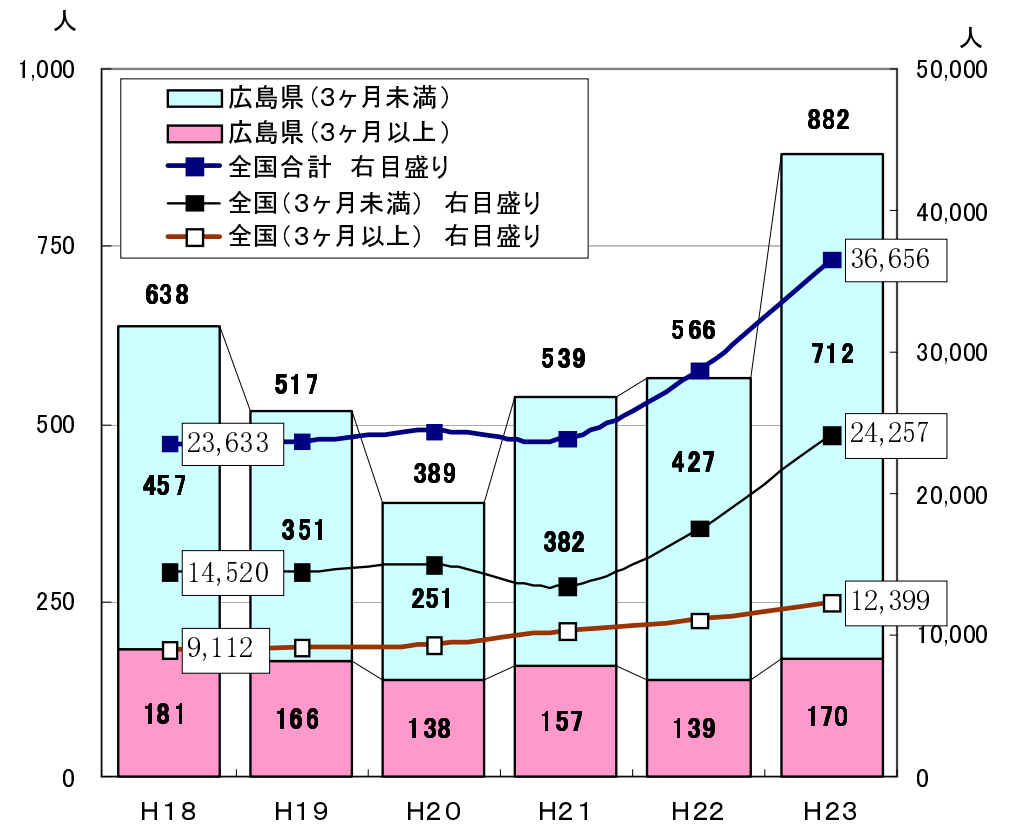
※学校基本調査(各年5月1日現在)

$$\text{転出率} = \frac{\text{転出超過数} (c-a)}{\text{県内高校の進学者総数} (b+c)}$$

■ 海外への留学者の状況

○ 海外への留学者数全体は、増加傾向

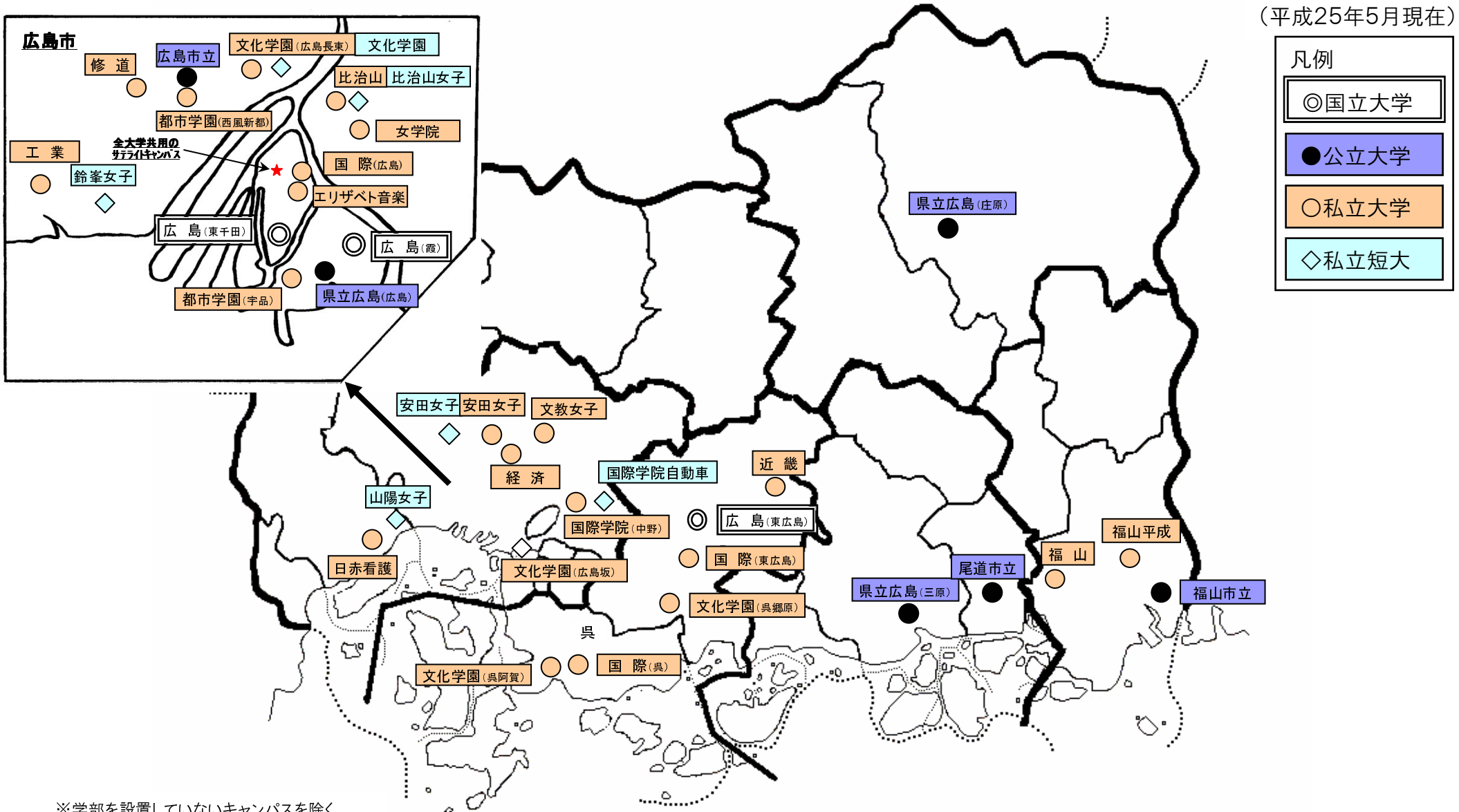
○ 留学期間3ヶ月以上は伸び悩み、全体の2割程度



※日本学生支援機構による「協定に基づく日本人学生留学状況調査」

本県の状況② (大学配置)

(平成25年5月現在)

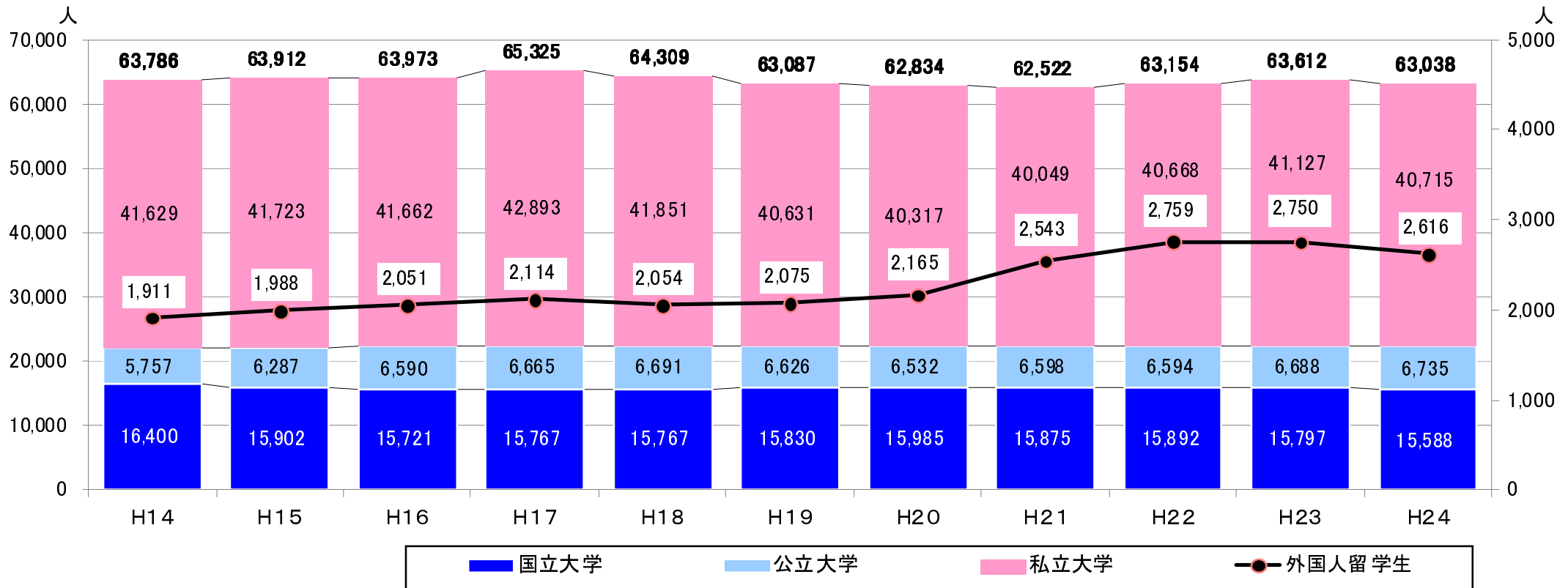


※学部を設置していないキャンパスを除く。

本県の状況③ (学生数)

■ 学生数の推移

- 学生数は、過去10年においては、概ね横ばい(6万3千人程度)で推移している。
- 外国人留学生は、増加傾向にあるものの、H22年以降、横ばい(2,700人程度)で推移している。

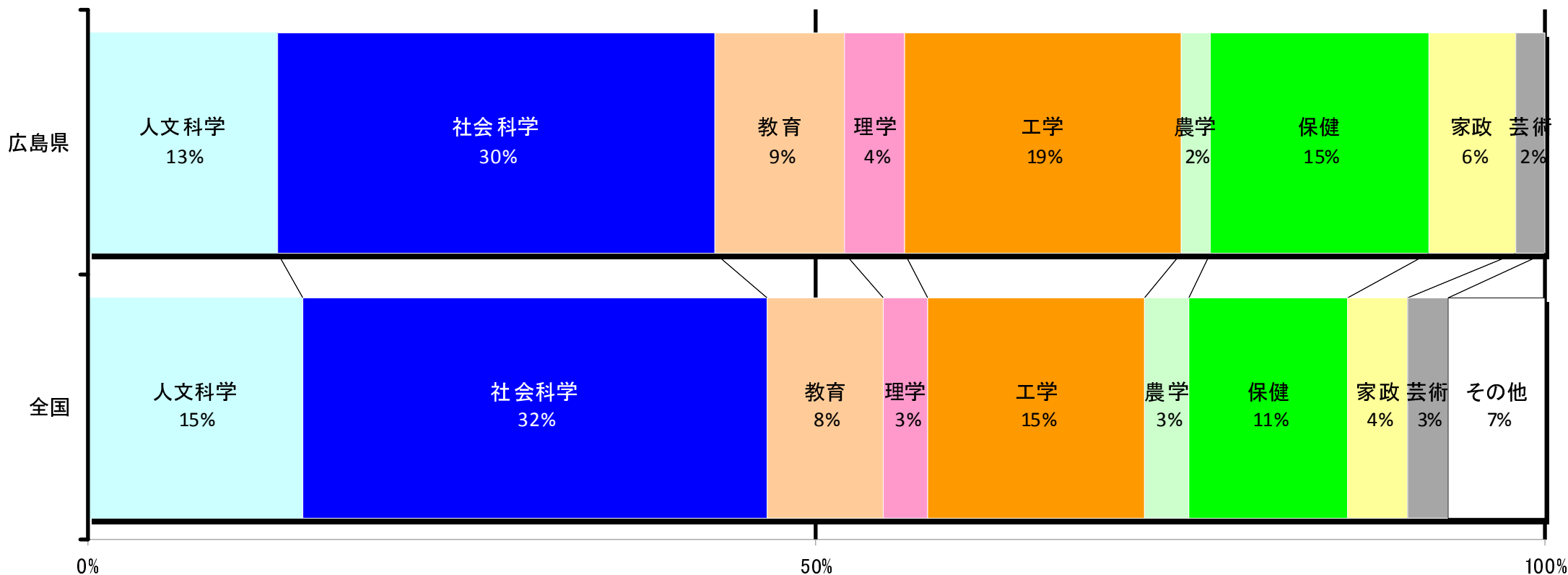


※学生数は、学校基本調査(各年5月1日現在:学部、大学院のほか、専攻科及び別科の学生並びに聴講生等を含む。)
外国人留学生数は、平成14～23年:広島地域留学生団体育成支援協議会調べ、平成24年:広島県留学生活躍支援センター調べ(各年5月1日現在)

本県の状況④ (学部・学科)

■ 学部・学科による系統別の学生数の割合

- 広島県においては、文系(人文科学, 社会科学, 教育)が約1/2, 理系(理学, 工学)が約1/4となっている。
- 全国と比べ、文系は▲3ポイント, 理系+5ポイントとなっている。



※学校基本調査(H24. 5. 1現在)及び学事課調べ

大学改革等の動向

■ 大学改革実行プラン (H24.6文部科学省)

I 大学の機能の再構築

- ① 大学教育の質的転換と大学入試改革
- ② グローバル化に対応した人材育成 (TOEFL等の活用等)
- ③ 地域再生の核となる大学づくり (COC構想の推進)
- ④ 研究力強化: 世界的な研究成果とイノベーションの創出

II 大学ガバナンスの充実・強化

- ⑤ 国立大学改革 (各大学においてプラン策定, ミッション再定義等)
- ⑥ 大学改革を促すシステム・基盤整備
- ⑦ 財政基盤の確立とメリハリある資金配分の実施
- ⑧ 大学の質保証の徹底推進

■ 教育再生実行会議第三次提言 (H25.5内閣官房) 「これからの大学教育等の在り方について」

1 グローバル化に対応した教育環境づくり

(海外大学の教育ユニット誘致, 入試等へのTOEFL等の活用, 留学支援の新たな仕組み, 小学校英語の拡充(教科化)等)

2 イノベーション創出のための教育・研究環境づくり

(理工系人材育成戦略の策定, 国立大学の出資規制緩和等)

3 学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能の強化

(教学マネジメントの改善, 実践的な教育プログラムの提供等)

4 社会人の学び直し機能の強化

(オーダーメイド型教育プログラム開発や学び直しへの支援等)

5 大学のガバナンス改革, 経営基盤の強化

(教授会の役割の明確化, 大学将来構想サミットの開催等)

■ 産学協働人材育成円卓会議アクションプラン

(H24.5文部科学省・経済産業省)

【新しい日本社会を牽引する人材像】

世界を舞台に活躍できるタフネスとグローバルな視点を併せ持ち、わが国の「新たな価値」を創造できる人材

【取組の方向】

- ・ 大学教育の質の向上と産業界との効果的な接続
(大学の取組: タフな学生の育成, リベラルアーツ教育の充実等)
- ・ グローバル人材の育成・確保
- ・ 知の拠点である大学を活用したイノベーション人材の育成
- ・ 産学の人材交流・流動化の促進

【企業・大学における7つのアクション】

- ① グローバル人材育成のための教育の充実・強化
例: 企業人材を講師とするなど実践的な教育を支援
- ② 積極的に海外留学・海外経験ができる環境づくり
例: 学生の海外留学促進のための組織的な取組の充実・強化
- ③ 外国人留学生在が日本で学び、働きたいと思う環境づくり
例: 企業セミナーの実施, 留学生受け入れ拡大
- ④ グローバル化に対応した大学の教育環境整備
例: 柔軟なアカデミックカレンダー・検討・設定及び企業の協力
- ⑤ イノベーション人材の育成・活用の充実・強化
例: 大学院における専門分野を超えた人材育成の取組推進
- ⑥ 共同研究・協働作業を通じた人材育成, 人材の流動化
例: 企業・大学双方の情報交換窓口の設置による交流の促進
- ⑦ 奨学金等経済支援の充実
例: 企業による奨学金の充実等

他大学における事例

| 区分 | 国際教養大学 (AIU) | 立命館アジア太平洋大学 (APU) | 国際基督教大学 (ICU) |
|-----------|---|--|---|
| 設立団体 | 秋田県 | 学校法人 立命館 | 学校法人 国際基督教大学 |
| 場所 | 秋田県秋田市 | 大分県別府市 | 東京都三鷹市 |
| 設立年月 | H16(2004)年4月 | H12(2000)年4月 | S28(1953)年4月 |
| 学部 | 国際教養学部 ※専門職大学院有り | アジア太平洋学部(APS) 国際経営学部(APM) ※大学院有り | 教養学部アーツサイエンス学科 ※大学院有り |
| 定員(1学年) | 175人 | APS:600人 APM:600人 | 620人 |
| 学生数 | 873人(H25.4現在) ※このほかに受入留学生121人有り | APS:2,676人(H25.5.1現在) APM:2,704人 ※うち留学生2,184人 | 2,759人(H24.10.1現在) ※このほかに受入留学生177人有り |
| 教員数 | 専任55人(H25.4現在) ※うち外国人が約5割 | 専任100人(H24.4.1現在) ※うち外国人が約5割 | 専任149人(H24.10現在) ※うち外国人が約1/3 |
| 偏差値 | 66(代々木ゼミ大学難易ランク) | 53, 52(代々木ゼミ大学難易ランク) | 65(代々木ゼミ大学難易ランク) |
| 学費(入学金除く) | 696千円/年 | 1,299千円/年 ※1回生 | 1,359千円/年 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業はほぼすべて英語 ・1年間の海外留学必須 ・就職率はほぼ100% | <ul style="list-style-type: none"> ・授業は日英二言語 ・就職率95.1%(H24.3卒業生) | <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツ英語プログラムが必修 ※すべて英語で行われる授業 ・就職率はほぼ100%(H24.3卒業生) |

※HP等による学事課調べ